

愛媛支部

はり・きゅう「家庭でできるツボ療法」



1月11日、愛媛県視聴覚福祉センターで健康対策部学習会を開催しました。講師は、松山市鍼灸師協会会長の栗田真宏先生です。参加者から日ごろの体の悩みについて申込時に伺い、先生にお伝えしたところ、合谷（ごうこく）、肩井（けんせい）、足三里（あしさんり）、三陰交（さんいんこう）の四つのツボについて準備してきてくださいました。お話の中で、それぞれのツボの場所や刺激のしかたをわかりやすく説明し、実際に参加者全員のツボを押してくださいました。なんとなくこの辺りだろうと思うところをぐいぐい押すのでは、効果がないばかりかかえってよくないので、正しい位置を優しく適切な強さで刺激することが大切なのだそうです。また、骨や筋肉など体の仕組みや、東洋医学の歴史についても興味深いお話を伺いました。



手話通訳は、体も脳も疲れる活動です。長時間連続することのないように、きちんと休憩を挟み、終わったらしっかり休息をとったり体のケアをしたりすることが必要なのだということを改めて感じた学習会でした。

手話言語フェスティバル 開催

香川支部



2月16日(日)新しい事業として「手話言語フェスティバル」を香川県社会福祉総合センターにて開催しました。初回ということもあり、県の聴障協会、中途失聴・難聴者協会、香通研から130名が集まり、午前中は県障害福祉課長や市福祉事務所長をお招きしパネルディスカッションを行いました。行政からの話、当事者としての現況報告・課題提議、香通研は支援者としての立場から曾我部会長がパネリストとして登壇しました。今までに各団体のメンバーが一堂に会することはなく、それぞれの立場から貴重な話を聴く事ができました。



午後からはセンター内を使い「体験スタンプラリー」を開催し親子連れ等、約220名の方が参加しました。聴覚障害者疑似体験・視覚障害者疑似体験・高齢者疑似体験・AED体験・手話体験・要約筆記体験・UDトーク体験、7つのコーナーを体験しながら周りまわりました。普段の生活では気づかないことや、聞こえないことについて実際に知るきっかけになりました。



あさいと 徳島

令和特別企画の学習会を開催

高知では、定例学習会や特別学習会を年4～5回開催しています。昨年は令和という年になり、他に出来る事はないだろうかと考え連続学習会を開くことを決めました。開催日は、昼間は奇数月の第2水曜の14時～15時半、夜の部は偶数月の第2水曜19時～20時半で、6月の夜の部からのスタートとなりました。

昨年末までの状況で、入会して5～6年未満の会員が多い時で7名位集まりました。ひと月毎に基本文法（8つのポイント）を進めていきます。



1. 表情（強弱・速度）
2. 具体的表現（様子や形・動き）
3. 主語の明確化（上体移動・視線・指さし）
4. 空間活用
5. 同時性
6. 指の代理的表現
7. 繰り返しの表現
8. 意味に合った手話

また、技術向上は勿論だが、会員の親睦を深め遠慮なく自分の考えや思いを言える場にしたい、教えをただ待つのではなく自分で考える・気づく場にしたいなどの思いを伝えて始まり、人数の少ない時は会員の気持ちを聞けるので活動の参考にもなっています。

高知支部

2019年度徳通研を振り返る

昨年4月27日に総会を開催。5月から元号も『令和』となり、年間事業計画に従って活動を進めていきました。

手話通訳対策部は毎月「全国统一試験合格の学習会」と「手話Café（ゆびっち®）」を開催し、試験対策については聞き取り・読み取り・場面通訳について学習をしました。毎回熱心に参加する方がいるお蔭で、担当する側もその気持ちに答えたいと共に頑張ってきました。手話Caféは中だるみもありましたが、会を重ねて40回を迎えることができました。組織部活動は西組織部「一泊学習会」を開催し、うだつ観光ガイドの手話活動を行いました。また健康講座も引き続き開催できました。北組織部では「防災学習その2」を開催するなど、地域の聴覚障害者との交流や学習を深めることができました。年が明けて、「とくしまチャレンジ芸術祭」へのパフォーマンス部門へ出場し、見事「チャレンジ奨励賞」をいただきました。徳島の地でもオリンピック・パラリンピックを応援しようと頑張りました。新型コロナウイルス肺炎の感染拡大の懸念により各行事の中止が相次ぎましたが、支部としては、目標会員数65名にあと1人というところまで伸びました。



次年度は、会員拡大と活動会員を増やしていくことが課題です。

徳島支部